






研究者名※	澁谷 正俊 SHIBUYA Masatoshi	学位※	博士(薬学)
所属※	理学部 化学生命科学科	職名※	准教授
連絡先	m-shibu@fc.jwu.ac.jp		
URL	http://www.jwu.ac.jp/~shibuyam/		
researchmap※	https://researchmap.jp/read0211906		
研究分野※	医歯薬学		
研究キーワード※	化学系薬学、有機化学、有機反応学		
共同研究・競争的資金等の研究課題	強いルイス酸性と求核性を併せ持つホウ素反応剤の開発と触媒反応への展開(基盤研究C, R5-7) ホウ素化合物の新規触媒特性の創出に基づく多置換複素環式化合物合成法の開発(基盤研究C, R1-3)		
社会貢献・産学官連携活動等			
受賞歴	2011年 日本薬学会東北支部奨励賞 2015年 有機合成化学奨励賞 2017年 ACP Lectureship Award, Mainland China		

研究領域	<h2 style="color: orange;">化学系薬学</h2>	(SDGs)	  
研究テーマ※	環境にやさしい低毒性化合物を使った有機分子変換反応の開発		
概要※ (概ね1000字以内) (写真・グラフ等自由)	<p><b>【研究の背景・目的・内容】</b> 天然に存在する植物などには、薬となる作用を持った化合物が含まれ、薬効成分を抽出することで古くから医療に用いられてきた。このような抽出による方法に加え、分子を変換するための反応を組み合わせることで、そのような薬効を示す化合物を人工的に合成できるようにもなってきた。しかしながら、分子変換反応の中には、毒性の高い重金属を含む試薬が必要となるものや大量の廃棄物を生じるものも多い。そのような方法は、実験室レベルの少量の合成では有用であるものの、薬の製造など大量合成で用いることは難しい。そこで、当研究室では、重金属を含まない毒性の低い有機化合物を触媒として使った環境にやさしい分子変換反応の開発を目指しています。</p> <p><b>【応用例、研究の展望】</b> 医薬品を始めとするファインケミカルを合成・製造するための新しい反応の開発を目指しています。ファインケミカルの合成を短工程化できる反応や既存の方法で廃棄物を大量に生じる反応を廃棄物を最小化できるグリーンな反応へと転換する方法の開発を目指しています。 また、合成の難しい構造を持つ化合物の医薬品として利用を可能にするため、複雑な構造を短工程で構築する方法論の開発を目指しています。</p> <p><b>【研究方法の特色】</b> 有機分子やホウ素化合物を始め典型元素化合物の触媒としての機能に着目して、新規反応を開発します。</p>		
ホン研究関連特許・論文等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・M. Shibuya et al. ACS catalysis, 8, 4189-4193 (2018)</li> <li>・M. Shibuya, Y. Iwabuchi et al. Journal of the American Chemical Society, 128, 8412-8413 (2006)</li> </ul>		
共同研究・外部機関との連携への期待	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有機合成技術を駆使した生体機能の解明や医薬品開発</li> </ul>		